乳児の遊び

子どもは遊ぶ事によって子どもに必要な全てのものになる。遊びは認識・知的なもの・動きのための練習、社会性の発達、これらの事が遊びに含まれている。

子どもは目に見える物で何かをしている。

- いじったり、触ったりして、手の動きを練習している。

これらは、知的、体の発達を促す。始めは、子どもが自分の手を見る。

子どもの発達を知る事で

発達を知る事で、その子の周りに、どんな遊具を置くことができるかわかる。

★手で遊ぶ→物を握る→複数の物を握る→組み合わせて遊ぶことができるようになる。

次の段階として

組み合わせて遊ぶようになってきて構造遊びとなり、この頃は道具の量が大切になる。

始めは自分の周りに集める→重ねる→通す→並べる→

積む・・・・始めに自分の手で遊んだ経験が重要になる

模倣遊び

子どもの実際の生活の真似をしようとする。これは役割遊びのもとになる。本物でないもので見た立てて遊ぶ。

★保育士のモデルが最も大切である。

★子どもは周りの人の真似をする。

★子ども同士の関係が出来てくると、集団遊びへと移る

何が・どのくらい・どんなものが・どこにが大切になり

年齢に合った道具・配置が大切かわかると思う。

遊びの大切な条件

①子どもの自発的なものである。

②子どものルールはたくさん作らない事。

③どのクラスも共通であること。

④子どもの発達を妨げないルールであること。

年齢別大人の役割

（０歳児）子どものそばに、いつもいることで安心を与える。子どもの遊びに必要な物を用意する。

色々な感触・形・色・材質（柔らかい・固い）・大きさ

音等　接し方①直接的・間接的

年齢別大人の役割

（１歳児）道具の量が大切になる。自分の周りに道具を集める。並行遊びをするようになる。大きな遊び・引っぱったりして遊ぶ。構造遊びも見えてくる。

年齢別大人の役割

（２歳児）模倣遊びをする。個人を大切にすることが大事である。遊びの中に規則がでてくる。子どもに扱いやすい道具を増やす事。

まとめ

２歳の終わり頃には、人と会話する（話し方・話の声・説明）大人の話し方が大切になる。全ての遊びに目的がでてくる。■道具を粗末に扱っている子どもは、その道具に飽きている子どもである。道具の入れ替えは点検し常に子どもが遊んでいるか考える必要がある。道具を違った扱い方をしているときも入れ替える。遊ぶ時間が十分あるか、道具の量は確保されているか、道具の配置はどうか、保育士は直接的・間接的援助が理解されているか。どのくらい子どもの遊びに関わっているか、保育士はどれくらい子どもに褒め言葉を知っているか。保育士がどれくらい肯定的支援しているか、園長と保育士の良い関係の中でしか子どもを発達させることができない。